

社会教育の推進に係る京田辺市と同志社との連携について

京田辺市社会教育委員会議

はじめに

同志社大学と同志社女子大学（以下「同志社」といいます。）は、京田辺市に昭和61年（1986年）に開校されました。その後、平成17年（2005年）1月に京田辺市と同志社は相互に発展していくために「連携協力に関する協定」を締結しました。

協定の締結以降、教育、文化、福祉、地域産業、まちづくり等の分野で同志社と京田辺市は相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とし、様々な取組を行っています。

その様な中で社会教育の立場から、京田辺市と同志社とのこの良好な連携を継続し、発展させていって欲しいと考えています。

## 1 同志社と京田辺市の連携

同志社と京田辺市は連携協力に関する協定の締結後、相互に協力して事業を開催しています。

主な取組として、京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ、K D S C（京たなべ・同志社スポーツクラブ）の実施があります。

京たなべ・同志社ヒューマンカレッジは同志社に会場や講師の提供をいただいております、受講者は大学の講義同様の環境で受講できる機会をいただいております。

また、K D S Cの活動は、陸上・サッカーなどは大学のグラウンドを会場に、体育会の監督や学生に指導していただいております。子どもだけでなく大人向けの教室も開催いただいております。K D S Cの活動は、教室だけでなくその後サークル活動としても継続でき、同志社に講師、会場等の協力をいただいております。

令和6年度の京たなべ・同志社ヒューマンカレッジの京田辺市民受講者は213人、K D S Cの開催する教室の参加人数は約382人で、同志社に会場や講師等提供いただいているこれらの教室の参加人数は、京田辺市の人口の0.8%程度です。

さらに今年度、中央市民大学で同志社の先生に講師をしていただいたところ、受講生に分かりやすく講義していただくことができ大変好評でした。市民に専門的な講義を受講する機会を提供したことで、京田辺市での同志社の存在意義と市民の学習意欲を高めることにつながりました。

また、京田辺市では社会教育事業として小学校の放課後に体験学習を行う放課後子ども教室を行っていますが、学生サークル等に協力いただきダブルダッチやドッチビーの開催ができました。学生に参画いただいたことで、子どもが活気づき盛況に事業を行うことができました。

## 2 同志社と京田辺市との今後の関係について

同志社と京田辺市との社会教育の分野での連携協力を引き続き継続していただきたく、社会教育委員会議の思いを伝えさせていただきます。

### (1) 地域に根差した大学へ

令和7年度京たなべ・同志社ヒューマンカレッジでは、同志社の学長と京田辺市長との対談が実施されました。その中で学長が「リカレント教育も大学が今後取り組むべき分野～人生の節目で学び直し、その後の人生を豊かにするための学びを、今後は大学が積極的に提供していくべき」とお話されていたとおり、市民へ学びの場の提供をより発展させていきたいと考えます。

学生と市民が協働して取り組む能動的な学びを取り入れるなど、学生と市民が共に学ぶ機会があれば世代間交流になり、学生と市民相互の学習意欲の向上につながるのではないかと考えます。また、市民が日常生活の中で思いついたときに、そこに探究の場があることは、市民の学びに対する意識を向上させることになると考えます。

### (2) 学生の地域参画の推進

学生の地域行事への参画を進めていくとともに、幼稚園、小学校及び中学校の児童及び生徒に教える体験を継続的に行う機会を提供することで双方に深いつながりができるのではないかと考えます。

学生に地域に深く根差した活動をしてもらう機会を提供することで、京田辺市にある同志社に通って良かったと愛着を持ってもらえることが私たちの願いです。

学生が小学校や中学校も含め、地域と継続的に関わり続けるなど、子ども達にとって学生が身近な存在になるとともに、学生の立場からも京田辺市が身近な存在となれば好ましいと考えます。

また、学生が地域の行事に関わり、地域の課題解消や再構築に向けた取組を大学の授業や課外活動で実践することで、地域活動が縮小している実情も含め体感して欲しいと考えています。地域に関わり社会活動や研究の実践を行うことで、彼らが将来より大きな社会課題を解決し得る人材へと成長する地盤をつくることになると考えます。

おわりに

学生が地域で学び、市民と交流し、課題解決を図る活動を通して社会経験を積むことは、その後の人生の価値観や視野視点に大きな影響を与えます。学生が直接市民と触れ合い、課題を設定し、そこから対策を生み出し実践する等、単発のボランティア活動では得られない社会活動を行うことで、社会活動マインドの醸成に繋がれば良いと考えます。

そしてより多くの市民が、同志社の恩恵を感じ、地元の大学と認識できる関係を築いていって欲しいと考えています。

また、京田辺市と同志社とが継続的に学生とこの地域が関わる機会を提供していくことで、学生たちが大学時代を過ごした京田辺市を生涯第2の故郷のように感じてもらえるとともに、市内の子どもたちが将来の大学生活に夢を持つようになれば光栄です。